

2018年本部事業等活動報告

■■ 1月 ■■

2018-1-7 14:00～ 理事役員研修会および懇親会

Viennese Waltz のリングダンス、West Coast Swing の復習、Waltz、Rumba (3・3's)、Bachata のリングダンス、Tango (8 歩の tango に変換)、Line Dance。懇親会は東京・五反田『東海酒家』にて。

2018-1-20 13:00～16:30 鳥取県 JDSF 公認指導員研修会 講師: 助川友朗先生

会場: 島根県安来市伯太中央交流センター(わかさ会館)

JDSF 本体は、非競技部門の部署ができました。山田専務理事から連絡があり、我々 AJ が推進する「国際的なダンス」を一緒にやりたいとのことで、3年前の夏から AJ と JDSF の合同勉強会が始まりました。両団体の関係が深くなり、いま私は各地に出向いています。

「ワールドダンス」って何？という答えは、「世界で踊られているダンスのこと」。つまり、JDSF の人たちの(競技・スポーツ)ダンスとは違い、一般の人が踊っているダンスを指します。日本語で言うと「社交ダンス」のことですが、社交ダンスは相手のために踊るダンスです。スポーツダンスは自分のためのダンス。競技ダンスには審査員が存在します。このほかデモンストレーションダンス(エキジビションダンス)があります。

これらを前提とすると、この 30 年間は「ミスマッチの 30 年」と言えます。パーティの時でさえも「教え魔」がはびこる現実。これは指導者の責任であり、ミスマッチの指導をしてきた弊害と言わざるを得ない。

この中で経験者より初心者の方が踊りやすいと感じたことのある人、手を挙げてみてください。(ほとんどが拳手)。普通は初心者よりも 10 年の経験者の方が上手だし、好かれるはずなのに、むしろ踊りにくくなったりする。

初心者は漠然とこう言うでしょう。「踊れるようになりたい」「上手になりたい」と。しかし、どういう風に踊れるようになりたいのか、上手になりたいのか。上手にもいくつかあるのです。

まだワールドスタイルダンスと出会う前、私は初心者には当時、ブルース、マンボ、ジルバを教えていました。当時はパーティともなると学生や若者に 200 枚くらいチケットを売りました。事前に無料団体レッスンをしてちょっとしたコツだけを伝授したものです。今日に至るまで、初心者にはブルースを教えるという指導者が圧倒的多数かと思いますが、実は初心者にとってはスローとクイックを取るのはすごく難しいことなのです。スローとクイックを教える前に、まず「ワンリズム・ワンステップ」で踊るダンスを教えましょう。

〔以下、実践種目〕

Viennese Waltz Samba Bachata Merengue (Love Hands 水車 世界一周など)

Blues Boogie Waltz (Ladies solo turn など)

2018-1-21 10:00～17:00 ワールドダンス講習会 in 松江 講師:助川友朗先生

会場:松江市大庭町・大庭公民館

昨年に続き、皆さんにお会いするのは2回目になります。ダンスとは、ワルツの音楽にのって踊ればワルツを踊ったことになるし、タンゴの音楽ではタンゴを踊ったことになります。何をステップするかではありません。しかし、日本人はステップを踏むことを指している。ステップはどう踏んでもいいのです。きょうは、これだけ知っていれば世界中のどこに行っても誰とでも踊れるというものをやります。

[以下、実践種目]① Disco ② Viennese Waltz ③ Bachata ④ Waltz(8小節の Ring Dance)
⑤ Samba(Waltzと同じ8小節の Ring Dance) ⑥ Paso Doble ⑦ Tango ⑧ Rumba(Time Step)
⑨ Boogie(Windows、Merry-go-roundなど) ⑩ Waltz(Ladies' solo turnなど) ⑪ Foxtrot

2018-1-28 11:00～ 第25回本部総会・会員懇親会 14:00～ お洒落な新春パーティ

通常総会后、参加者全員が近況を報告。昨年の活動を通じての感想やダンスとの関わり方など、各人が発表。皆の話を聞き、助川理事長から次のようなお話がありました。

AJは当初から言っていることだが、各人・各教室の営業上の教え方について言及しているわけではない。いわゆる「社交ダンス」の教え方としてワールドスタイルを推奨しており、実際に成果を上げているのは世界的に見ても明らかである。

私はかねて社交ダンスを一括りにせず、競技ダンス、スポーツダンス、デモンストレーションダンス、社交ダンスに分類している。当然お客のニーズも異なるわけで、お客の求めに応じて対応すべきだと考える。

「お客が増えない」「サークルに新しい人が来ない」「既存の客は高齢化する一途で、若い人は入ってこない」などの背景には、教え方が大いに関わっている。かつて自分が習ったやり方を踏襲するに留まっていないか、分かりやすい教え方ではないのではないか、サークルの雰囲気一般の人が敬遠するような異質な感じになっていないか——。考え方を柔軟にし、受け入れる側が時代や客層に合わせて変化をしていかなければ新しい人は入ってこない。

続く新春パーティは、本間一明&エスメラルダの生演奏をバックに飲み放題・食べ放題、デモンストレーションの披露もあり、午後のひとときを楽しみました。

■■ 2月 ■■

2018-2-25 13:00～ 義務講習会

■■ 3月 ■■

2018-3-10 13:00～ 大阪義務講習兼 JDSF 合同勉強会 講師: 助川友朗先生

先月 2 月 14 日、東京・武蔵野市主催の「老壮シニア講座」の講師を務めました。水曜日の午後 1 時半から 3 時半まで。私は約 1 時間、「60 からの冒険 80 からの新しい私～安全・安心・快適から、冒険・喜び・楽しみへ」と題し講演をしました。平日の昼間ですよ、来場した 180 人はほとんど 65 歳以上。「タバコもお酒も 65 歳から大いに楽しみましょう」といった話をしたわけですが、この日は拍手喝采を浴びました。

残りの人生、老人としてこれから先の 10 年、20 年をどう生きるか。まず、お金はすべて自分で使う。今や 2DK の住まいにはテレビが 3 台あるくらい物にあふれている。これからは、喜びと楽しみ、悲しみなどソフトにお金を使う。我々ダンスの指導者、先生は何を売っているか。ダンスはソフトです。ダンス技術はハードで、ハードを売ると上限がある。そこで、我々はその人が幸せになるよう、ダンスが上手いとはどういうことか考えなければならない。他人から見た基準で良し悪しを決めてはいけない。第三者の評価と、いま正に踊っている相手の評価は違うということ。好例として、ダンスを何十年もやった経験者が初心者よりも踊りにくいということとは少なくない。

私はいわゆる高級老人ホームと呼ばれる施設でダンスレッスンをしているが、85 歳から初めてダンスをした人でも上手くなる。人間は誰でも年を取ると目は霞み、耳は遠くなり、衰えを実感する。身体を使うものはすべて衰え、ヘタになる。ところがダンスは違う。上手になったと自身が実感できる。高齢になり、成長を実感できることはダンス以外にないだろう。

これまでダンスは、大きく、強く動くことがベターと言われてきたが、小さく、優しく動いても成長できる。ダンス界は、大きい方が評価されることから大きさを評価基準にしてきたが、これからは相手に評価されるダンスを踊ることだ。

そのためには、常に相手を変える必要がある。今回のテーマは 1 曲ごとにパートナーチェンジをすることと、なるべく小さく踊ること。

〔実践種目〕 Viennese Waltz Merengue Bachata Disco Fox Blues Boogie Rumba Waltz Tango Salsa Chachacha

2018-3-26～29 INTAKO2018(第 51 回国際ダンス教師会議)

会場: 独デュッセルドルフ・マリティンホテル

恒例の INTAKO。助川先生が Waltz Tango ChaChaCha の 3 種目を発表。今回も反響が大きく、来年は日本のトラディショナルダンスも併せて紹介して欲しいと、ツェンツァー ADTV 会長から直々に要望がありました。

2018-3-27 10:00～3:30 谷宏先生卒寿のお祝い 会場:仙台市民会館地下展示場

AJDT 国際ダンス本部の終身理事兼代表代行の谷宏先生が 3 月 29 日に満 90 歳を迎えることから、長年にわたるご尽力に感謝し「卒寿記念パーティ」を開催。谷先生率いる連合会のシークエンスダンスの披露をはじめ、谷先生へ捧げるお祝いのダンス、誰でも参加できる講習などを展開、ダンス界のみならず地元市政幹部ほか首都圏からもおよそ 100 人が参加しました。講習会は AJDT の宮木康隆副理事長と JDSF の中道俊之岩手県連会長が担い、団体を横断した式典となり、谷先生の普及振興活動が目に見える形で実現するものとなりました。

■■ 4月 ■■

2018-4-8 13:00～ メダルテスト&パーティ

AJDT 降旗幹子顧問の傘寿+5のお祝いも兼ねたパーティ。本間一明&エスメラルダの生演奏とともに、デモンストレーションも行われました。

2018-4-29 13:00～国際ダンスデー(東京・五反田会場ほか)

AJとして今年 6 回目の主催となる国際ダンスデー。1982 年、ユネスコ・インターナショナル・ダンス・カOUNシル(CID)が定めたダンスの日になみ、毎年4月 29 日は加盟 150 カ国以上で様々なダンスイベントが開催されます。AJは、ダンス初心者を対象に全国の会場で講習会やパーティを実施。五反田会場では、次の種目を通じ初心者向けレッスンを展開。

Viennese Waltz Blues Boogie Bachata Tango Rumba Waltz

■■ 6月 ■■

2018-6-3 12:00～公開セミナー 14:00～17:00 ワールドスタイルダンスパーティ

〔セミナーテーマ:社交ダンスと高齢化社会〕

ダンス人口の推移について各県会員からの現況報告…… 若者は入ってこない、高齢化、底を打った感はあるが、ダンス人口激減、新しい人は 80 歳代だけ、「50～60 代の若い人」は入ってこない、サークルの減少・消滅、高齢化による骨折などケガの心配、老人ホーム化した公民館サークル、リード&フォローは関係が逆転し「女性が決める」、家族や孫、パートナーのことで参加できなくなる人が増加、老人ホームの空き時間に出向きワールドダンスの個人レッスンをしている、今までやっていた人はどこに行ってしまったのか、アルゼンチンタンゴのミロンガは男性参加者が多く「自分がリードできるから楽しい」、足型やルーティンが優先の社交ダンスとは違う異次元の華やかさを体験できるアルゼンチンタンゴ、「踊ってやる」が鼻につく社交ダンスに嫌気がさしている人もいる——など。

普及・発展に向けた対策……新規に始める人へのアピールが固定化(月謝制など)しており、前払いやその都度の支払いなど多様化の必要がある。各世代ごとに対応する必要もある。クラスレッスンはだいたい 1 年経つと飽きることから、個人レッスンなど違う提示をする。しか

しこれも平均5年。初心者であってもそこで数組が踊っていれば、初めて目にする人にとっては踊っているように見える。男性などはしり込みして入ってこない。希望者がいれば男性のみのレッスンや前半後半、または個人レッスンに振り分けるとよい。漠然と「あんな風になりたい」「上手に踊りたい」と言って具体的にはどうなりたいのかよくわからない人がほとんど。いろいろな「商品」を提供する必要がある。

社会状況の変化を察知する……高度成長時代は大量生産、大量消費が謳われ、強く、早く、大きいことに主眼が置かれていた。ファミリーレストランはセントラルキッチンを拠点に効率化を図り、店舗では調理せず温めるだけ、居酒屋もシステム化されどこでも一緒。新幹線が張り巡らされ、さらには名古屋まで一時間で行けるリニアモーターカーまで開発された。しかし今は高齢化社会。4人にひとりが高齢者だ。人々の価値観や時間、お金の使い方が変わってきている。九州を走る豪華列車「ななつ星」は高額でありながら人気を博し、ゆっくり、美味しいものを頂きながら、最高のサービスとともにゆっくりと各地を巡る。いま流行りのレストランは、一晩で3組だけのために開き、値段は通常の10倍はするが、来客者の趣向、健康など考慮し個々のメニューを作って提供している。ファミレス不況の一方で、この形態であれば店は一回転でOK。大から小、早いからゆっくり、強いから優しさへと文化は変わったのだ。着るものも同じ。テラーでオーダーメイドもあるが、デパートでのイージーオーダー、専門店ではサイズや種類を豊富に揃えて安く売っている。米国ではウエットスーツを作るのに、センサーが付いたものを被るだけで体型通りのものが7千円程度ですぐ作れるとか。日本でも同様のサービスが始まっている。1対1のオリジナルだ。

ダンスを見てみると、皆を並ばせステップを覚えさせるシステムは大量生産、大量消費と同じだ。これにハマった文化の人たちだけはこのやり方が通用したが、次の世代は文化が違うので、これではつまらないから来ない。内容を変えなければならない。若い客にどんなイメージのダンスを踊りたいか聞くと映画『ラ・ラ・ランド』を挙げる。競技ダンスではない、最終着地点を見せないと客を逃すことになる。我々は、ダンス文化を伝えることでお金を得ている。来た人が満足し、喜びを感じることで対価をもらう、その手段がダンスであり、幸せを与えるという観点に切り替えなければならない。ダンスを教えるということになると、「4回転の技術」を教えることになってしまう。

老人ホームのレッスンは、スローとクイックが取れない場合はすべてスローで動く。個人差はあるものの、プロムナードもスロー。昨年から90歳の女性を教えているが、彼女は「ダンスをして自分は成長したと思う」と。誰も歳を取ると目は霞み、耳は遠くなり、身体を使うものは衰えしか感じない。将来に夢がない。しかし、ダンスは夢が与えられる。歳を取っても成長が感じられる、他に類を見ないものだ。これを提示すれば明日に向けての希望が生まれるから生きられる。ただし、競技ダンスなど見せ、終着点を間違えるとそれはできない。ひとりも落ちこぼれを出してはいけない。順番に足型などできない。その都度の対応が必要だ。従って、その人たちには小さく踊ることを提示している。

例えば、外国のクルーズ船。ルーティンは教えず、小さく踊ってくださいと指導する。乗船す

る一週間を良い思い出にしてもらうため、その日どうするか教えない。ダンスはなるべく動かない、小さく動く。夜のパーティでその理由はわかるが、多くの人でゴった返すフロアではそう踊るのが当たり前だから。大きく踊ることしか教えないからこれではだめ。ダンス踊りは、強さから優しさへ、早くからゆっくりへだ。また、ダンス靴を履けと言ってはいけない。靴を脱がすことを止めないと一般の人は来ない。ダンス教室の多くが入室時にスリッパに履き替えさせるようだが、変化した文化に対応していないと感じる。

Small Softly Slowly これらが侘び寂びや色、艶、粹につながる。私がレッスンする老人ホームに94歳の山下さんという男性がいるが、彼は実に粹でセクシーなダンスを踊る。

現況報告で「リード&フォロー」の言葉が出てきた。これを引っ張るとか付いていくと解釈するのは問題だ。私は、リードするのとされるのは同じことだと言っている。何十年もダンスをやった人ほどリードしにくかったりする。一方、リードされることを知っている人は楽だ。その差は何で出るかわからないが頭で理解する人は固いのもかもしれない。

2018-6-9 13:00～ 大阪地区 AJ&JDSF 合同勉強会

会場:放出・ゴールデンパレス 講師:助川友朗先生

6月3日(日曜)、東京で公開セミナーを開催し、会員から近況報告をしてもらうと、ダンス人口の減少が下げ止まったとか若い人が来ないなどの意見がでました。そこで若い人とはいくつくらいか、と聞くと50～60歳代との回答。ダンス界で「若い人」とはその年齢を指すのですね、世間の常識とのズレを感じました。日本語は難しいです。例えば「ダンス」というと、いまの人たちはEXAILなどが踊るダンスを連想します。

■「超高齢化社会に求められるダンスとは～変化した文化に対応する3つのS(エス)」■
(別項に抄録)

〔実践編〕 初心者へのレッスン→すべて横から動く。縦に動いた場合、足を揃えた時に両足に体重が乗るためどちらの足から始動すればいいのかわからなくなってしまう。ボックスは難しいから教えない。ダンスを杓子定規にしてはダメ。技術本は後から付けられた理論。固定概念を捨てる。ヨーロッパに行く際は必ず現地のダンス教室を巡るが、壁に向かってリバースターンをする光景にはびっくりしたが、これもありだと思われた一件だった。

〔種目〕 Boogie Bachata Disco Fox Foxtrot Rumba(Presentation) Waltz Tango

2018-6-10 13:00～ 第3回ワールドダンス講習会 in 宮城県大河原町 講師:助川友朗先生

■「超高齢化社会に求められるダンスとは～変化した文化に対応する3つのS(エス)」■
(別項に抄録)

〔種目〕 Boogie Bachata Salsa & Mambo Waltz Tango

■■ 7月 ■■

2018-7-22 13:00～ AJ&JDSF 合同勉強会 講師:助川友朗先生

前半＝「第1回の初心者のクラスレッスン」(1時間半)を1時間に凝縮して模擬講習。全員が初心者になって受講する。Viennese Waltz Samba Bachata Blues Boogie Tango

後半＝レッスンで使えるフィガーを紹介。Tango(Separation Swivel×3) Waltz(Zig Zag Swivel) Rumba(Ronde)

■「超高齢化社会に求められるダンスとは～変化した文化に対応する3つのS(エス)」■
(別項に抄録)

■■ 8月 ■■

2018-8-4 13:00～ 大阪義務講習およびJDSFとの合同勉強会

会場:ゴールデンパレス大阪 講師:助川友朗先生

■「超高齢化社会に求められるダンスとは～変化した文化に対応する3つのS(エス)」■
(別項に抄録)

ガラパゴス化したメニューで教えてはいないか？ ダンスを教えるということは、ステップを教えるのではなく、踊れるようにしてあげることだ。ダンスは自分が知っていることだけをやればいい。踊りましょう、と誘って「私はできません」と拒否するのは日本人だけ。踊るというイメージを変えなければならない。

7月初旬まで豪華客船の飛鳥で3カ月の船旅をしたお客がいる。帰国後にレッスンに来た際、「やはりここの教え方でないとダメだ」と船上でのレッスンを比較して感想を話してくれた。飛鳥には「飛鳥ルーティン」なるものがあり、日中はレッスン、夜はダンスパーティとなる。飛鳥は踊らせないレッスンだそうで、初心者は3カ月経っても何も踊れない。

私の知り合いが五大湖のクルージングに乗船した際、レッスンが始まってすぐ第一声は「ダンスは動いてはいけない。その場で踊って」というものだった。なぜか。夜のパーティはイモ洗い状態になるからだ。ダンスというもののイメージを変えないと、被害者ばかりになる。ダンスを10年も習ってワルツは踊れないなどという人もいる。

公民館のパーティでルンバを踊っている様子を見ると音がひとりも合っていないことがある。これは指導者に問題がある。先月8日、私の古希の記念も兼ね「皆でダンスを楽しむ会」と題し、飲み放題食べ放題の無料パーティをしたところ、参加者から「先生のパーティではほとんど全員ルンバの音を外さないから驚いた」との声をもらった。音を外す人は音楽を聴いていない。さらにパーティで嫌われる人。女性では、固めていたり勝手に踊る人。男性は教え魔。

どうか皆さん、説明しないレッスンを騙されたと思ってやってみてほしい。もっと言うと、教えないレッスン。いっぱい習うとヘタになる。悪いところを直すのではなく、良いところを褒めてあげるように。

前半＝「第1回の初心者のクラスレッスン」(1時間半)を1時間に凝縮して模擬講習。全員が初心者になって受講する。Viennese Waltz Samba Bachata Blues Boogie Tango

後半＝レッスンで使えるフィガーを紹介。Tango(Separation/Promenade open Swivel×3 Promenade turn) Waltz Rumba

2018-8-5 15:00～ AJ&JDSF 合同勉強会 講師:助川友朗先生

前回7月22日の勉強会では、初回の初心者のクラスレッスン、約1時間半を1時間に凝縮して模擬講習しました。皆さんはそれを受けた感想は、何かありませんか？

要約すると、①スローとクイックのあるものは後にして、ワンリズム・ワンステップの種目から始める。②横に動く。③音楽にのって動く気持ちよさを味わう。④今月はワルツ、今月はタンゴなどと単科の種目を集中して教えるのは最低だから止めてほしい。私は1レッスンで最低6種目。ただし行為を身に付けさせるため、同じ行為を種目を変えてやらせる。その方が早く踊れるようになる。⑤並べてステップを覚えさせない。ルーティンで進めない。

社交ダンスの前提は、誰とでも、どこでも、どんな曲でも踊ることであり、相手のレベルに関わらずパートナーは変わる。

豪華客船の「飛鳥」に3カ月乗り、再び私のレッスンに来た際「ここの男性は成長している、踊れるようになってきている」と話してくれた女性がいる。飛鳥のレッスンは、並ばせられて覚えさせられるもので、踊るという行為が少ない。特に男性初心者は3カ月経っても踊れず、せいぜい日中のレッスンに来て夜のパartyはしり込みして来ないのだそうだ。

ビデオ通りに教えるメレンゲ、ルーティンのメレンゲもまったく意味がない。メレンゲは初心者でも踊れることから、サルサクラブでは週末には簡単に踊れるメレンゲやバチャータを多くかけている。簡単なダンスを難しくしたら意味がない。サルサクラブも靴を替えさせるところがあり、閉口した。サルサクラブでは日中空いている時間にレッスンをし、夜も引き続き営業する場所がある。昼の客はサルサのルーティンを覚えてそれを夜やるものだから、夜の客はそれを覚えられないといけないう有り様。このような現状を直し、変えていかないとだめだ。

では、きょうは各種目別に講習を進めます。Swing Blues Foxtrot Waltz Tango Disco Fox Rumba

2018-8-18 13:00～ 大阪義務講習およびJDSFとの合同勉強会

会場:ゴールデンパレス大阪 講師:助川友朗先生

(冒頭、結婚式向けとクリスマス向けの音楽を紹介)——五反田の助川教室では年に1組程度は、結婚式でダンスを踊りたいからと言ってレッスンに来るカップルがいることから、それに特化した音源をいくつか用意している。もちろんこの曲で踊りたいという、持ち込みにも対応する。また、クリスマスシーズンにはクリスマスソングが必須だ。例えば私の場合、4カ所の老人ホームに行ってレッスンをしているが、ホームの入居者にとっては毎日が日曜日のようなものだから、イベントや季節にちなんだ曲で盛り上げる必要がある。

さて、先々週は「1 種目 15 分以上はやらない。ただし種目を変えて同じ行為をさせ、身につけさせる」「初心者には、スローとクイックがある種目をやる前に、ワンリズム・ワンステップの種目をやる」などの話をした。きょうはスローとクイックを理解させた後のレッスンについて、各種目ごとにやっていく。

- 1 Blues SSQQ で横に動く
- ② Foxtrot ピヴオットを身につける。プロムナードからレディースソロターン、ロールイン、2 人で右回転、ローリングオフジームなど
- ③ ロールインを Waltz でやってみる
- ④ Foxtrot に戻り、プレツェルで回転してみる
- ⑤ Foxtrot と Waltz と Tango で Merry-go-round。さらに、Rumba と ChaChaCha でも Merry-go-round。
- ⑥ Rumba や ChaChaCha で「洗濯機」。
- ⑦ Rumba Presentation から NY そして Turkish Towel。Waltz と Tango でも Turkish Towel。
- ⑧ Bachata
- ⑨ Disco Fox
- ⑩ Boogie トルネードやシオルダーターン 世界一周 キック&キックなど
- ⑪ Salsa
- ⑫ Paso Doble

2018-8-26 13:00～ 東京・義務講習会

理事による講習。栗飯原、浅岡、津金、鈴木、笹岡、石田氏が各人のテーマに基づき発表。

■■ 9月 ■■

2018-9-1 13:00～ AJ&JDSF 合同勉強会 講師:助川友朗先生

Boogie の集中講習。レッスン時に使える、Boogie(ジルバ)の引き出しを増やしたいとの要望を受け、様々なフィガーを紹介。同じ動きを Rumba や ChaChaCha でも実践。

2018-9-2 13:00～ 第4回ワールドダンス講習会 in 宮城県大河原町 講師:助川友朗先生

(会場:大河原町世代交流いきいきプラザ)

11月10日の「仙台市高齢者生きがい健康祭」、通称「シニアいきいきまつり」を視野に、参加者全員が交流できるダンスを実践する。

- 1 Blues
- 2 Boogie 左右のバスケットから続けざまに女性をWターンさせ右へのバスケット
- 3 Square Rumba 8小節、男性は右足からスタート
- 4 Salsa & Mambo New York と Hand to Hand
- 5 Tango

■■ 10月 ■■

2018-10-7 13:00～ メダルテスト&ワールドスタイルダンスパーティー

パーティーには、本間一明&エスメラルダが出演

2018-10-14 13:00～ 仙台講習会 講師:助川友朗先生 会場:幸町南コミュニティーC

谷先生指導のもと、ライラックワルツ タンゴサリーダ サンタートウゲゼザー バルモーラル ブルースなどのシークエンスダンスが披露されました。

11月10日の「仙台シニアいきいきまつり」でダンススポーツの会員と一般の愛好家がスムーズに交流できるよう、ジルバ、スクエアルンバ、ブルース、サルサ・マンボ、タンゴなど前出の大河原での実践内容を復習。

(助川先生のお話) 社交ダンスの現状は、競技会ではスポーツとしてダンスが踊られ、本来の社交ダンスが忘れられている。競技ダンスは人と争うスポーツだ。社交ダンスは、他者と仲良くなれるものなのにこれを勝負にしてしまうと仲良くなれない。

ノーベル賞授賞式や米国の大統領就任式には必ずダンスがある。日本人のノーベル賞受賞者に対し、日本人は必ず「ダンスはしますか？」と質問するが、外国ではそんな質問はない。特殊なことではないし、受賞者でも大統領就任時のトランプでも、特別なことをするわけでもなく、身体を左右に揺らし普通に踊っている。

ダンス界を見ると、世界は競技者が少ないが日本はその逆。権威があるものが好きな表れか。しかしここに来て多くの日本人が気づき始めた。ダンススポーツを旨とするJDSFにも社交ダンス部ができ、部員が増加している。少し風向きが変わってきている。少しずつ変わろうとしているのもう少し待ちましょう。

■■ 11月 ■■

2018-11-4 14:00～ ロイヤルダンスフェスティバル(仮装パーティー)

アート&シャロンのデュオ「ハーモニー」が生演奏。飲み放題、食べ放題。前半にはデモンストレーションの披露、後半は恒例の仮装大会で盛り上がりました。

2018-11-14 18:30～ JDSF 高知県ダンススポーツ連盟講習会 講師:助川友朗先生

JDSF 関西ブロックの依頼で、高知JDSFに初講習。

ダンスは…①競技ダンス②スポーツダンス③デモンストレーションダンス④ワールドスタイルダンスに分類できる。

「ワールドスタイルダンス」とは?…日本以外の欧米で踊られている社交ダンススタイル。世界中の誰とでも、どこでも、どんな音楽でも踊れることを目標とする。パートナーチェンジ、ルーティン、ノーシークエンス、原曲で踊るなどの考え方が基本。

教え方…若年・青年・中年・高齢者で異なる。

初心者に対して何をしてあげるか。最終目的は？ 顧客・生徒のニーズに応えているか。

日本の問題点は、自分が習った通りにダンスを教えること。果たしてそれは最高なのか。お客に対する「商品開発」をする必要がある。90歳を過ぎてダンスを始める人もいる。日々衰えを感じる中で、ダンスは唯一成長を感じられる。年老いて成長を実感できるものは、世の中にそう多くない。ダンスはそれほど素晴らしいものだ。

バブル時代は強い・早い(速い)・大きいが「善」とされてきたが、これからはゆっくり・小さく・優しいに文化が変わる。日本は、高度成長から低成長期を経て超高齢化社会へ突入した。歴史を振り返ると、江戸時代の元禄文化はバブルと通じるものがあり、大きな庭園や華美なものが流行った。しかし、江戸時代の後期、文化・文政文化になると大きな庭園ではなくそれが盆栽へと移行していった。

〈実践種目〉 Bachata Blues Boogie Rumba Waltz Tango

2018-11-23 18:00～ AJ&JDSF 合同勉強会 講師:助川友朗先生

JDSF 関西ブロックは、鳥取県の高校でワールドスタイルの講習をして成功し、複数の高校へと広がりを見せている。先週、高知で講習した際、大阪 JDSF 社交ダンス部幹部の参加もあった。その時、鳥取県米子西高での社交ダンスの授業について嬉しい報告があり、日本海新聞(11月10日付)に掲載されたコピーをもらった。生徒が笑顔で手を取り合っている写真があった。

報告によると、1回45分×6回の授業で、1回目にメレンゲとパチャータ、2回目にウイナーワルツとサンバ、3回目にブルースとブギを実施したという。それ以前には高専でも実施しており、その反響を受けて西高での実施に至ったという。

共学であっても異性と口をきく事がなく友達になれなかったのが、社交ダンスの授業で友達になれたとアンケートの結果で明らかになったようだ。このアンケート結果でもわかるように、「ダンスを教える」を主眼にするのではなく、「男女交際のマナーを教える」に考え方を切り替えるのがよい。ワンリズム、ワンステップから始め、ブルースとブギまでで十分だ。むろん教えるのはダンススポーツではない。初心者には社交ダンスを教えて欲しい。

来る12月24日、助川教室のイベントで、今年で50年目になる恒例の演技発表会「春秋会」がグランドプリンス高輪で行われる。半世紀前に故・助川五郎が編み出したもので、教室の先生と生徒が演技発表をするシステムだ。今から50年前は、日に10人は初心者が入会があった。しかし、少しでもできるようになると3カ月位で来なくなってしまう。それを継続してもらうにはどうすればいいか。そこで考案されたのが演技発表会というわけだ。

昭和35年前後から徐々に始まったもので、これは日本独自のシステムであることから世界の人には得られない、ある種お客にとっては最高のサービスといえる。そこからは周知の通り、あっという間に全国の教室に広まり現在に至る。

前身となる発表会を経て、昭和43年12月に誕生した「春秋会」。教室としては潤うが、レッスンの内容が自然とデモンストレーションの内容となる。

昭和40年代には庶民へとダンスが広がり、リーズナブルにダンスができる公民館へと広

がり、ダンス教室でダンスを習った人が公民館で教えるようになった。これが JDSF の始まりといえる。ダンス教室と同様に、公民館でも少し踊れるようになると来なくなり、来させるために「競技会」へとつながっていく。運動量の勝負ではない。もう一度庶民の手に社交ダンスと取り戻そうと言いたい。

きょうは、島根の高校でやっているメニューから始めます。

Bachata Viennese Waltz 4人で踊る Boogie と ChaChaCha と Rumba
Sweetheart と Turkish Towel を使った Waltz と Tango

■■ 12月 ■■

2018-12-1 15:00～ AJ&JDSF 合同勉強会 講師:助川友朗先生

(冒頭、JDSF 関西ブロックの学校への普及活動の状況を説明。記事化された新聞のコピーを配布)

第1部/米子西高校で実施されたダンス授業の紹介。ワンリズム・ワンステップの種目。

→Merengue(タップさせない) Bachata(4つ目にチョン=タップ) Square Rumba(明確に2をチョンさせる。8小節のルーティンを紹介)

第2部/ Salsa ChaChaCha Rumba Waltz

2018-12-2 12:00～ 公開セミナー&ワールドスタイルダンスパーティー

セミナーのテーマは「ダンスを楽しく踊るために」。

パーティーは、本間一明&エスメラルダが生演奏。食べ放題、飲み放題、踊り放題でデモンストレーションダンスの披露もありました。

2018-12-16 13:00～ 第5回ワールドダンス講習会 in 宮城県大河原町

講師:助川友朗先生

(冒頭、ダンス教室における演技発表システムの起源と発達および公民館ダンス隆盛の歴史的背景を解説。以下、公民館ダンスについて抜粋)

昭和40年代前半から公民館ダンスが盛んになった。サークル主催者も活動を継続させるため、人に来てもらうために目標設定をすることを考えた。日本独自のシステムとして考えられたのが競技会で JDSF の走りといえる。ただ競技の勝者はひとり。敗者復活制度を導入、5級から SA 級まで 10 段階を設け勝った人は上のクラスに行く。この細かな階級制度も日本独自で、結果サークルは競技会を使って活動を継続することにつながっていく。するとレッスンの方向がズれていく。またダンス教室は演技発表導入で経営が潤ったことから、デモンストレーションダンスを教えるようになる。このような流れを受け、誰とでも、どんな音楽でも踊るといふ社交ダンスの前提が置き去りになってしまった。競技会はクラスごとにステップに規定を設けたり、ルーティンを決め見せ場を作るなど、サークル自体が競技会に勝つよう変わる。大きく踊り、審査員にアピール、40年を経て必然的に変化するに至り、今や競技会の種目以外

はやらないという別世界になってしまった。

もっと皆と一緒に楽しめないと発展しない。そう思った 20 年前から方向転換し、今日に至るのが AJ のダンス。世界中、どんな人とも、どんな音楽でも、どんな場所でも踊れる——を目的にレッスンする指導法。基本的には皆で踊れるダンスで、競技種目以外のダンスも教える。ノーベル賞の受賞式で、ダンスを踊るかどうかが聞く(話題にする)のは日本人だけ。外国では踊るのが普通だから聞かない。それだけ日本ではダンスが特殊なものだと捉えられている。音楽に乗って「普通に踊る」のがダンス。外国では、音楽に乗って相手に合わせればいいと思っているから特殊ではないのだ。

〔実践種目〕 Boogie Tango Waltz

※開催会場について、特記のないものは AJ 本部(助川ダンス教室)。